



『伝 統』

茨城県
十王町武道振興会
中学2年生 牛坂 みやび

「はあ一十の王様ヨー 堅破山でナイ
ハヤロヤッタナイ ハヤロヤッタナイ
岩に代わってヨー ふるさと守るナイ
ハヤロヤッタナイ ハヤロヤッタナイ」

これは、私の通っている十王中学校に伝わる鶺鴒舞の一部です。意外にも、鶺鴒舞の歴史は浅く、誕生してまだ10年です。私の二番目の兄達が総合学習の授業の中でつくったものです。100年続く伝統を築いていこうとして始めたそうです。代々、2年生が学び、後輩に伝えてきました。こうして、誰かが始めたことを繋いでいって伝統は出来るのだと、鶺鴒舞を学んだことで、この夏、改めて思ったのです。

私が幼い頃から習っている剣道も同じなのではないでしょうか。

現在のように竹刀を使って剣道をするようになったのは、江戸時代と言われています。しかし、その頃は、まだまだ、来たるべき戦に備えての練習でした。現代の競技剣道になったのは、昭和になってからです。よく考えてみると、伝統的な武道である剣道も、そう昔でない時代に当時の剣道家たちが考え出したものなのです。ここには、形だけでなく精神が存在します。戦いでありながら、相手を敬い、大切に思う気持ちが存在するのです。では、近年の剣道は、心の伝統もしっかりと受け継いでいるのでしょうか。私は疑問に思うのです。

数年前の世界大会で、韓国チームの礼儀についてが問題になりました。一本にならないからといって試合を開始しなかったり、終わりの礼をしなかったりしたのです。会場の声援も最悪でした。私はインターネットで配信された映像を見たのですが、とても国際大会とは思えませんでした。日本の大会であったら、容赦なく反則を取られるのではないのでしょうか。普段から韓国の歴史に興味があり、素晴らしい歴史があって先人や目上の人を重んじる儒教の国であると学んでいたもので少しがっかりしました。

剣道は、多くのスポーツとは少し違うと思います。礼儀を重んじる武道です。試合とはその名の通り試し合いであり、勝った時は、良い技を打たせてくれた相手に感謝し、負けても、自分の弱さに気付かせてくれた相手に感謝するものだと言われました。相手への礼節や感謝の念といったことが試合の勝ち負けよりもとても大事なことだと思うのです。剣道の世界一は礼儀や動作の一つをとっても世界一であるべきではないだろうかと思います。私は、今までも、そしてこれからも心正しく、稽古でも、試合でも、相手に失礼のない様にあり続けたいと思います。

伝統は、守り受け継ぐだけでなく、より良くなるように工夫をして、次の時代に引き継いでいかなければなりません。私の通う十王町武道振興会も祖父から始まり、私の父で二代目になります。祖父から父、そして私へ。伝統はまだまだ続いていきます。伝統を受け継ぐ者として、私はどうあるべきかと考えてみました。

今年、私は、中学校の部活動で副部長になりました。私の学年に経験者が一人しかいないせいもあるのですが、今まで人をまとめることを苦手としてきた私に何が出来るのだろうと考える、良い機会を得たと思っています。中学生の私にできることには限りがあると思います。しかし、祖父が、父が、

私に伝えようとしてきた「正しい剣道」を追究していきたいと思います。「正しい剣道」とは。相手を制する気迫をもった正しい構え。正しい姿勢から繰り出される正しい打突。しっかりとした残心。そして、相手への礼儀と感謝。そう昔でない時代に、剣道競技を考えた先生方が残していこうとした武士道をこれからは繋いでいけるように頑張っていこうと思います。

中学校生活もあと一年半になりました。父のもとで剣道の基礎をしっかりと学び、伝統を繋ぐことが出来る良い指導者になります。